【八月の言葉（令和二年）】

救いの中にある限り

希望はあっても　絶望することはない

「仏の顔も三度」は、「どんなに温厚な人物でも三回目にはキレる」という意味で使われています。確かに、人間には我慢や許容の限界がありますから、言動や状況が意に沿わなければ、助けるべき相手さえも、簡単に見捨てたりもします。

人間には、何事に対してもリミッター(制限)がかかりますが、仏さまは違います。「阿弥陀」とはノーリミッター(無制限)を意味します。いつも、いつまでも、何度でも(三度どころではありません)・・・、ずっと永遠に私の救いをあきらめないのが阿弥陀如来の本分であり、その名前の由来です。

「阿弥陀」の語源は、サンスクリット語で〈限りない光・限りないいのち〉と表現されます。つまり、私を包み込む限りない「ひかり」と「いのち」を「阿弥陀如来(仏)」と仰ぐのです。

（吉村隆真著「心の読み薬」参照）